

「幸せ日本一」は、ほころびている

町長 指摘をいただき議論していきたい

春日 隆司 議員



住みづらくなった要因

質問 前定例会で町民意識調査の結果を真摯に分析するとあったが分析していない

町長 H26年調査に対して、谷町政3年間で「住み良い」と答えた人は減少し、「住みにくい」と答えた人は増加している。

再質問 農・林業振興、福祉、医療、子育て政策などがあるが、町の目的とするのは福祉の増進（住みよいまち）を図ること。町長は、「住み良い、住み続けたい」という声が大きいのが「幸せ日本一」のイメージと言っている。結果として認めたくはないと思うが、「幸せ日本一」は、ほころびている。

町長 総合計画策定などで委員の人たちにも指摘をいただきながら、議論していきたい。

再質問 町長が変わり、町民の期待度が増した。福祉、子育て、教育の期待度が大きい

が、その期待度に対しての満足度が低い。しっかりと分析せず数字だけを捉えるのでは、情報を操作していることになる。

政策移住者は実質増なのか

質問 転入出について、H27年・28年は減、H29年は増だが、増は、産業の設備投資による雇用増、高校生（3年後転出する）入学者増など。一方、高齢者の方々は住み続けたいが、施設がなく多くの人が転出している。

町長 高齢者施設については、町の状況、将来を考えると既存のものを確保していくことが重要である。人材難でもある。

再質問 施設設置を出来ないではなく、方策を検討するのが仕事だと思う。

財政が厳しくなった原因は

質問 財政問題について、他人事のように聞こえる。前町政からお財布を引継いだりだが、町長は貯金3億円取り崩し借金を3億円した。そしてお財布が苦しくなってきたと言っている。予測しなかったのか。

町長 限られた財源の中で効果・効率のあがる施策を進める。総合計画策定の中で財政計画もしっかり取り組んで行きたい。

町長の公言と結果責任

質問 町長は、「一人の政治家として、言ったことには責任を持つ、常に信念と覚悟をもって進める」とのことであるが、一例として、自治基本条例は、H27年6月に公約であり全体を見直す、28年6月との9月に議会提案したい、30年6月に議会と協議して行きたいと

あったが、1回も協議していない。

町長 任期中に協議して議会提案したい。

再質問 言葉が一人歩きしている。行政は不を解消していくこと。不信に繋がる。

漏れバケツの穴が大きくなっている

質問 地域をバケツに例える理論。バケツに水を注ぎ穴をふさいでいく。財政はすっかり穴が大きくなって流れ落ちていく。人口の入り口にスポットが当たっているが高齢者の方が出て行っている。バケツの漏れが非常に多い。これが町の実態である。

町長 厳しい財政の下、一生懸命執行していると自負している。

再質問 力を結集し、豊かな町をどうつくるか、これ一点である。